

ソーシャルワーク応用実習指導

[講義・演習] 第3学年 後期 選択 0.5単位

《履修上の留意事項》 4年次に開講されるソーシャルワーク応用実習及びソーシャルワーク応用実習指導を履修予定の学生は必ず履修すること
4年次にソーシャルワーク実習・指導を履修する学生は実習日程等の点から履修困難となるので留意すること

《担当者名》 近藤 尚也 n-kondo@hoku-iryu-u.ac.jp 巻 康弘 大友 芳恵 志水 幸 福間 麻紀 片山 寛
信 宮本 雅央 (主担当、副担当)

【概要】

最終学年に実施されるソーシャルワーク応用実習に対する実習前教育の科目である。ソーシャルワーク応用実習は実践と研究の視点を深めながら社会福祉実践の統合化を図ることを特色とする。

従って、この科目を選択する学生は、「卒業論文」や「現場体験を深める」等の自らの自主的な学習目的と課題をもって実習に臨むことが必要である。

【学修目標】

実習分野の特性を理解することができる。

自らがソーシャルワーク応用実習・実習指導を通じて取り組む実践的課題を明確化することができる。

自らがソーシャルワーク応用実習・実習指導を通じて考察する研究的課題を明確化することができる。

実践的課題・研究的課題を明確化した実習計画書を作成することができる。

【学修内容】

| 回 | テーマ | 授業内容および学修課題 | 担当者 |
|---|-------------------------|--|---------------------|
| 1 | 全体指導：オリエンテーション | ソーシャルワーク応用実習の概要を理解することができる ソーシャルワーク応用実習における実習先の概要が理解できる (実習施設希望調査用紙等の説明) | 近藤、巻、片山、宮本 |
| 2 | グループ学習 グループオリエンテーション | グループオリエンテーション 実習施設・分野のソーシャルワーク特性について理解することができる | 大友、志水、巻、福間、片山、近藤、宮本 |
| 3 | グループ学習 | 実習施設・分野のソーシャルワーク特性を理解することができる(文献学習・施設見学等によるグループ学習) | 大友、志水、巻、福間、片山、近藤、宮本 |
| 4 | グループ学習 | 実習施設・分野のソーシャルワーク特性を理解することができる(文献学習・施設見学等によるグループ学習) | 大友、志水、巻、福間、片山、近藤、宮本 |
| 5 | グループ学習 | 実習配属施設との連絡、調整により、実習配属施設・機関を明確化することができる 実習課題について具体化することができる。 (実習計画書の作成指導) | 大友、志水、巻、福間、片山、近藤、宮本 |
| 6 | グループ学習 | 実習配属施設との連絡、調整により、実習配属施設・機関を明確化することができる 実習課題について具体化することができる。 (実習計画書の作成指導) | 大友、志水、巻、福間、片山、近藤、宮本 |
| 7 | グループ学習 | 実習配属施設との連絡、調整により、実習配属施設・機関を明確化することができる 実習課題について具体化することができる。 (実習計画書の作成指導) | 大友、志水、巻、福間、片山、近藤、宮本 |
| 8 | グループ学習 | 実習課題について具体化することができる。 (実習計画書の作成指導) | 大友、志水、巻、福間、片山、近藤、宮本 |

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部(研究科)、学校の授業実施方針による

【評価方法】

実習計画書やグループ事前学習課題などの提出物(50%)、グループ学習への参加態度(50%)などを総合的に勘案して評価を行う。

【教科書】

必要に応じてプリント等を配布する。

【参考書】

必要に応じて提示する。

【学修の準備】

次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP2.1.3.4.5

【実務経験】

大友 芳恵(社会福祉士) 巻 康弘(社会福祉士) 福間 麻紀(社会福祉士) 片山 寛信(社会福祉士) 近藤 尚也(社会福祉士)
宮本 雅央(社会福祉士)

【実務経験を活かした教育内容】

社会福祉士、ソーシャルワーカーとしての実務経験を通じて得た知識・技術・態度等を活用し、実践的な教育を行う。